

## 市政注目トピック

### ■チーム学年経営

小・中学校「学年チーム担任制」  
導入に向け来年度モデル実施が決定

かねてより私の政策提言の中の一つであった「学年チーム担任制」の導入について、今年度教育委員会に提案、働きかけを行ってきました。結果、来年度からモデル実施されることが決定しました。

この制度は、複数の教員が同じ学級を担当することで、児童一人ひとりの学習状況や生活面を、複数の視点から把握するものです。教員同士が情報を共有しやすく、それぞれの教師の多角的なサポートができ、いじめや不登校、児童の異変に早い段階から気付け、チームで解決できる可能性が高くなる効果が期待できます。

また、複数の大人が寄り添う体制があれば「あの先生に相談しようかな」「地域の〇〇さんに話してみよう」と、児童に選択肢が増えますし、学習面や生活面に対するポジティブなフィード



バックができる機会も増えるでしょう。

それだけではなく、教員にとってもメリットが大きいと思います。得意な科目等、先生の長所を活かしますし、苦手な部分は他の先生にフォローしてもらえます。これまで以上に学年全体に貢献できるようになるので、全体で児童を見守る安心感が生まれます。教師の働き方改革にもつながる取り組みです。

今後モデル実施を行い、効果検証をしっかりと行った上で、他地域に展開していけるよう後押ししていきます。

## 増永あやこ市政報告書

# あさひ・つなぐ・レポート

2024年  
秋号  
vol.004

## 「秋のこどもまんなか月間」がはじまりました

みなさま、こんにちは。

11月20日は国連が制定した「世界子どもの日」です。世界の子どもたちが相互理解できること、そして福祉の向上を目的としており、世界各国で子ども達が主体のイベントが多く企画実施されています。

日本ではこども家庭庁が「秋のこどもまんなか月間」を設定しています。こどもや子育て世帯を社会全体で支える気運をさらに醸成するため、企業・個人・地方自治体等の取組が多く実施されます。特に、「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」では、子ども達の虐待を阻止するため、広報啓発が強化されていきます。今でも年



先日ほっと左近山にて  
キッズミュージカルに出演しました

こども家庭庁HP▶

間70名もの子ども達が虐待で命を落としています。是非、身の回りに「おかしいな」と思うことがあれば、どうか迷わず【189(イチハヤク)】にお電話ください。地域の皆様とともに、こどもから高齢者の皆様まで、みんなが安心して過ごせるまちづくりをしていきます。

## ■子どもの学びの多様化議連の立ち上げ



8月27日に実施したキックオフにて

多様なニーズのある子どもたち(例えば、不登校・障がいや外国ルーツのある子ども等)の実態を把握し、支援する政策の実現を目指す地方議員の連盟のコアメンバーとして企画実施をしています。

日本に住む子どもたち一人一人が大切にされていると実感し、希望を持ち、可能性を伸ばせる、自分に

合った学びの場を得られることをビジョンとし、日々勉強会等行っています。

先日のキックオフイベントには、全国各地から対面で50名、オンラインは70名を超える方々に参加いただきました。予想以上の反響の多さに、今子どもたちの学びに対する関心度の高さを改めて感じ、議連のニーズも再認識しました。

この学びあいを大切にして、横浜市にもしっかり還元していきたいと思えます。

2013年慶應義塾大学総合政策学部(SFC)卒業後、リクルート住まいカンパニーに入社し注文住宅のアドバイザー・チーフとして3年間勤務。

その後Teach For Japanに参画し、2016年4月より小学校の教員として3年間従事。地域を巻き込んだ教育施策にも取り組んだ。その後コンサルティング会社でコンサルタントとして大手企業を中心とした人事戦略、人材育成を務める。

古川なおき衆議院議員秘書を経て、2023年4月統一地方選挙にて、横浜市旭区で13,712票を獲得し、横浜市議員に初当選。

### 【お問い合わせ】

増永あやこ希望ヶ丘事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望ヶ丘199-1

TEL: 045-744-6628 / FAX: 045-744-6638

Email: ayako.masunaga.0720@gmail.com



◀ 活動報告・最新情報はX(旧twitter)でもご確認いただけます

ますなが  
増永 あやこ

横浜市旭区出身 / 横浜市議員

## 議会トピック

### ■令和5年度決算第一・第二特別委員会局別審査

この度、局別審査にて、決算に対する質問を行いました。今回は、経済局、道路局、健康福祉局、都市整備局の4局に質問を行いました。その中で2つの局の質問をダイジェストでお伝えします。

#### ■健康福祉局 - 地域包括ケアシステムについて

横浜市は、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、「横浜型地域包括ケアシステム」の構築を進めてきました。

特に、健康状態にある高齢者の皆様の地域活動参加率の低迷、そして身近に活躍の場を持つことができない状態を解消すべく、シニア生きがいマッチング事業を実施するとしています。高齢者個人のニーズに基づき、地域活動団体や企業等から切り出した活動へマッチングを行うことで、高齢者の社会参加を促進することを目的にしているとのことでした。

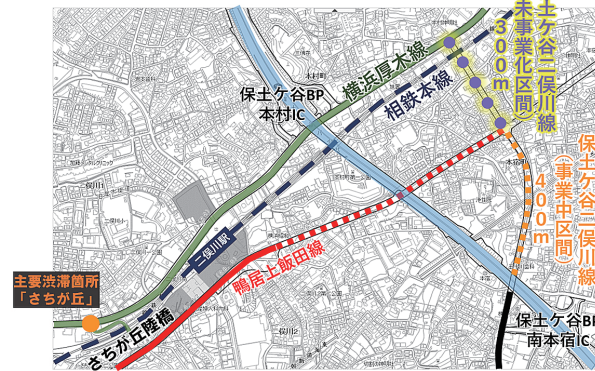
今後は、区役所や経済局と連携をし、マッチング先を



より増やし、高齢者の方々のつながりをより増やしていけるよう、局を横断し連携実施することを要望しました。

#### ■道路局 - 鴨居上飯田線・保土ヶ谷二俣川線の整備

保土ヶ谷二俣川線 位置図



鴨居上飯田線と保土ヶ谷二俣川線は現在工事が進んでおり、相鉄線二俣川駅の南口付近に位置する約2キロメートルの区間で、さちが丘地区から二俣川駅まで、車でも駅前までスムーズに行けるようになりました。

保土ヶ谷二俣川線は、現在は鴨居上飯田線との交差点までが事業化されていますが、この道路は、相鉄本線と交差して横浜厚木線に至る区間も都市計画決定されています。

この残る約300メートルの区間がつながると、保土ヶ谷バイパスの本村インターと南本宿インターの双方のアクセスが更に高まり、事故や災害時におけるリダンダンシーの確保にも資することが大いに期待できますし、相鉄線を横断するルートとして交通が集中している「さちが丘陸橋」の代替路としても活用でき、渋滞緩和を図ることができます。

今回この事業化を道路局は決定し、現在工事を進めていくとのこと。実現に向け着手する際には地域の皆様へのご説明や協議をしっかりと重ねていただくよう要望をしました。

線路が地下化され、保土ヶ谷二俣川線が横浜厚木線までつながることによって、鉄道によって分断された地域の連続性も確保されていきます。

## 市政注目トピック

### ■ポートランド視察 - 「住民主体のまちづくり」とはどういうものなのか？

この夏、私は「全米で最も住みたい街」として注目され続けている、オレゴン州ポートランド市へ視察をしてきました。そこで、ポートランド州立大学が主催する1週間の研修プログラムに参加し、「住民主体のガバナンス」を軸に、ポートランド都市圏の様々な住民主体のまちづくりを見てきました。そしてディスカッションを通じ、横浜市にどう還元できるかを考え、学ぶことができました。



実際に配布されている食材



現地視察しインタビューも行いました

まちづくりをより住民主体で行うこと、そしていいものを取り入れチャレンジする姿勢を忘れず、私も邁進していきたいと思えます。



ポートランド市議会にて代表挨拶を行いました

特に印象的だったのは、諸問題に対応する地域住民の主体的に取り組む姿勢です。ネイバーフッド・アソシエーション（NA）という組織（横浜市でいう「自治会」のような組織）は、有志の人材が地域の課題解決に向け、自主的に組織運営する仕組みです。特出すべきは「連携」の輪が大きいことです。NPOや企業、行政を主体的に巻き込み、課題に対してそれぞれがどんな役割を担い、取り組むかを議論し実践していました。例えば、貧困家庭に対し食材を提供する活動をしているNAは、自分たちで畑を耕し野菜を提供すると同時に、近隣の大手スーパーや行政、NPOも巻き込み、週2回無償で様々な食材を提供していました。

また、行政職員のレベルの高さも驚かされることが多くありました。ポートランド市は約65万人の人口に対し、行政職員は正社員で9,400人ほど。職員は大学で学んだ知識や専門性を活かして就職するので、より地域の課題にダイレクトに取り組んでいる印象がありました。



街にはアートと緑があがっていました